



## ● 私の提言 ●

## 世界一の技術開発プロセス構築に向けて

(株)リコー 細川 哲夫



2018年から品質工学会と本学会の共同研究会「商品開発プロセス研究会」がスタートしました。アカデミアが中心の本学会

と技術者が中心の品質工学会が融合することによって、日本独自の産学連携の研究組織が実現したのです。このような研究会が実現することは両学会に所属する筆者にとっては数年前までは予想すらできなかったことです。大きな期待感を抱きながら、これは日本の製造業に役立つ新たな価値を提供する大きなチャンスであると考え、本研究会の3つのWGの一つであるWG2「創造性と効率性を両立した技術開発プロセ

スの研究」の幹事を担当することになりました。

WG2では、創造性と効率性を両立させた最も効果的な技術開発プロセスとして欧米で市民権を得ているDFSS (Design For Six Sigma) をベンチマークし、そこに品質管理や品質工学の考え方や技法を融合させることで、DFSSを超える技術開発プロセスを構築することを目指しています。そして、その成果として技術開発プロセスを設計するプラットフォーム“T7”を提案するという段階に到達し、品質工学会の大会RQES2021Sにてその概要を発表する機会を得ることができました。今後はT7の実践活用を通じて課題を見える化し、よりよいものに仕上げていく予定です。

WG2の研究活動は欧米から謙虚に学ぶと同時にJapan as No.1と言われてい

たころの日本の強みを再認識するところにも特長があります。WG2での議論の中で共有化された最近の日本企業の課題についても触れたいと思います。品質工学の活用はR&Dなど製品化プロセスの上流に行くほど効果が大きくなります。ところが、上流段階での品質工学の活用が進まない実態があるのです。上流活用の本質は失敗の加速と失敗からの有益な情報獲得にあります。これが短期成果主義マネジメントと相性が悪いのです。欧米企業がかつての日本企業から学び、それをDFSSなどの仕組みとして再構築した一方で、日本企業はかつての欧米企業の合理主義経営を導入し、創造性と効率性の両立という意味で周回遅れ状態になってしまったと思うのです。この状態でT7の導入を推進するとT7が短期成果の手段とされてしまい件数管理などの形骸化が懸念されます。それを避けるためにより大きな経営目標を設定し、それを実現する手段としてT7を位置付ける方針管理の再導入が有効ではないかと考えています。皆様のご意見もいただければと思います。

JSQC規格  
講習会  
レポート「新製品・新サービス開発管理の指針」  
—顧客・社会のニーズをもとに  
新たな価値を創造する—

2021年5月18日(火)、JSQC規格「新製品・新サービス開発管理の指針」の講習会が行われました。オンライン講習の利点で参加者は全国各地から、また多様な業界から計32名が集まりました。終息が見えないコロナ禍や、低下しつつあると言われる日本の国際競争力などの環境の変化もあり、参加者の多くには、業界を問わず、この先の開発や創発、顧客価値創造やイノベーションはどうあるべきかという共通の危機感が前提としてあったのではないかと思います。

新製品開発には、潜在ニーズの把握、ボトルネック技術のブレークスルー、DRや初期流動管理など、品質管理・保証における広範な知識や実践が必要となります。この規格は、そのための有用な手法をパッケージとしてまとめ、わかりやすく解説することを主眼に、学会として作成されたものです。

中條先生による講義では、企画からアフターサービ

スの広範囲にわたる各プロセスで活用される様々な考え方やツールについて、限られた時間の中でも、そのエッセンスを何とか詳しく伝えたいという熱意が感じられました。質問の機会も多く、最後には30分以上にわたる質問や参加者の議論が進められました。

コロナ禍で想定しない使用環境に晒される、リモートで行われるDRの物足りなさや三現主義が実現できないもどかしさといった今時の悩みも討論されました。

参加者の顔ぶれは幅広く、製造業の開発や品質保証担当のみならず、医療、一品モノ、スタートアップ、あるいは現場工事のプロセス開発はどうあるべきか、など、開発として想定する活用範囲を多様な参加者が押し広げ、この規格をさらに価値あるものに行っているように感じられました。

企業や業態によってその成り立ちや個性、強みなどは異なりますが、この規格は従来型の大量生産のみならず、様々な業種やプロセスで開発ロードマップとして活用できる、非常に有意義なものと言えるでしょう。この規格を活用した各企業の次代の価値創造が望まれるところです。

小川 文子 (株)MUJIN)

## 第142回関西 講演会 レポート

### 多様性の受け入れを阻むものは何か？ ～真なるD&Iを目指して～

2021年6月18日、関西支部主催の第142回講演会が開催され、コロナ禍、オンラインで31名が出席した。講演1では、元帝人株式会社日高乃里子様から「女性がより一層活躍できる環境づくりと企業の取り組み」と題し、元の職場、帝人で取り組まれたダイバーシティの推進について講演をいただいた。「女性が会社で意欲をもち能力を発揮できるような仕組みづくり」について具体的な体験を交え共有していただいた。帝人が2000年に、トップダウンの元、専任組織を作り、開始した女性が活躍する仕組みづくりの中で、人事制度改革、女性育成のための研修プログラムなどが紹介された。ニトリとの共同開発では、女性だけのチームをつくり、顧客に直接届く商品を開発する新しいコンセプトを提案し、社内外から評価された。ダイバーシティ&インクルージョンの意義を具体的な事例を自らの体験を交えてわかり易いお話をいただいた。

講演2では、EY Japanの梅田恵様から「企業におけ

るLGBT+支援の取り組み」と題し、現職場で取り組まれているLGBT+について講演をいただいた。LGBT+は性的マイノリティなどの総称であり、LGBT+の中にも多様性があることや日本でも11人に1人はLGBT+であることを自認しているという現状報告があった。当事者の感じている課題や悩みを知り、LGBT+に対する偏見や差別しない言動を日頃から認識しきちんと対応することが必要。自治体でも同性パートナー制度が導入されるなど、LGBT+に対する取り組みが進み出している。企業や教育機関でも人事制度や教育システムなどの環境づくりが望まれるが、従業員のニーズも多様化しているため、制度設計の際に利用者をLGBT+に限定せず、多くの人が利用できるように人事規定もユニバーサルデザインにしておくなどよいなどの経験談を頂戴した。LGBT+に関する対応について悩みを持つ人も多いと思うが、自分が知らなかったことも多く次につながったことを実感できた。講演後のパネルディスカッションでは多くの質問があり活発な議論がなされた。ダイバーシティやLGBT+に関する知識だけではなく、企業の取り組みに言及したご講演を元に活発な議論ができ有意義であった。

杉谷 浩成（住友電気工業株）

## 2021年4月の 入会者紹介

2021年4月14日の理事会審議において、下記の通り正会員1名、準会員3名、賛助職域会員1名の入会が承認されました。

### (正会員1名)

○伊藤 洋介（ダイセル）

### (準会員3名)

○加藤 拓・葦沢 晃三郎・北川 暁佑（名古屋工業大学）

### (賛助職域会員1名)

○木村 喜一郎（味の素ヘルシーサプライ）

名誉会員：20名

正会員：1711名

準会員：64名

職域会員：50名

賛助会員：152社224口

賛助職域会員：12名

公共会員：17口

## 教員公募

### 早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教員公募

**募集人員** 教授、教授（テニュアトラック）、准教授、准教授（テニュアトラック）、専任講師、または、講師（テニュアトラック）1名

**所属** 早稲田大学理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科  
／経営デザイン専攻

**研究分野** IE・生産マネジメントに関する分野

**着任時期** 2022年4月1日(金)

**応募締切** 2021年8月31日(火)必着

**詳細** 早稲田大学 理工学術院 公募・採用  
<https://www.waseda.jp/fsci/tag/recruiting/>  
早稲田大学 教員公募

<https://www.waseda.jp/top/about/work/organizations/academic-affairs-division/faculty-recruitment>

### 千葉工業大学 社会システム科学部 経営情報科学科 教員公募

**募集人員** 2名、それぞれ、教授、准教授、または助教

**所属** 社会システム科学部 経営情報科学科

**研究分野** 社会システム工学分野

**着任時期** 2022年4月1日(金)

**応募締切** 2021年8月30日(月)必着

**詳細** 千葉工業大学 社会システム科学部 教職員募集  
<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/adoption/>

## 行事案内

### ●第124回クオリティトーク（東日本）

テーマ：SDGsと品質管理

ゲスト：平林 良人氏（テクノファ）

日時：2021年8月18日(水)18:00～20:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

詳細・申込：[https://jsqc.org/124th\\_qtalk/](https://jsqc.org/124th_qtalk/)

### ●第129回QCサロン（関西）

テーマ：デジタル人材の社内育成プログラム  
～ダイキン情報技術大学～

ゲスト：下津 直武氏（ダイキン工業）

日時：2021年8月23日(月)19:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込先：関西支部事務局

詳細：<https://jsqc.org/129qcsalon/>

### ●第126回研究発表会（中部）

日時：2021年8月25日(水)13:00～17:05

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込締切：2021年8月18日(水)

詳細・申込：[https://jsqc.org/126th\\_kenkyu\\_presentation/](https://jsqc.org/126th_kenkyu_presentation/)

### ●第143回講演会（中部）

テーマ：観察データと実験データ-製造業の品質管理では今まで通り実験計画法の考え方を大切に-

日時：2021年8月25日(水)17:45～19:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込締切：2021年8月18日(水)

講演者：永田 靖氏（早稲田大学）

詳細・申込：[https://jsqc.org/143th\\_chuubu\\_kouenkai/](https://jsqc.org/143th_chuubu_kouenkai/)

### 会員登録情報 更新のお願い

2019年8月より会員登録情報は、インターネット上から確認・修正変更することができるようになりました。

転勤や異動など会員登録情報に変更がありましたら、「会員データベース(会員専用ページ)」より更新してください。

### ●第127回研究発表会（関西）

日時：2021年9月17日(金)10:30～16:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

プログラム：

研究発表 6件

特別講演 グローバル・ロジスティクスの現状と課題

石原 伸志氏（東海大学）

詳細・申込：[https://jsqc.org/127th\\_kenkyu\\_presentation/](https://jsqc.org/127th_kenkyu_presentation/)

### ●第125回クオリティトーク（東日本）

テーマ：品質管理のタブーについて

ゲスト：遠藤 友貴哉氏（遠藤メソッド）

日時：2021年9月22日(水)18:00～20:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

詳細・申込：[https://jsqc.org/125th\\_qtalk/](https://jsqc.org/125th_qtalk/)

### ●第126回クオリティトーク（東日本）

テーマ：製品安全と品質

ゲスト：二橋 岩雄氏（JSQC会長）

日時：2021年10月6日(水)18:00～20:00

会場：Zoom会議室（オンライン）

詳細・申込：[https://jsqc.org/126th\\_qtalk/](https://jsqc.org/126th_qtalk/)

### ●第129回QCサロン（関西）

テーマ：日本発“ものづくり新論”

：JITを超えて

ゲスト：天坂 格郎氏（青山学院大学）

日時：2021年10月12日(火)19:00～20:30

会場：Zoom会議室（オンライン）

申込先：関西支部事務局

### ●第51回年次大会（本部）発表募集

日時：2021年11月13日(土)

会場：中部地区またはオンライン検討中  
※決定次第ホームページにてご案内いたします。

(1)申込期限

発表申込締切：9月24日(金)

予稿原稿締切：10月21日(水)必着

参加申込締切：11月3日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

### 「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

### 中部支部事務局

#### 電話番号変更のお知らせ

2021年6月1日から中部支部事務局の電話番号が変わりましたので、お知らせいたします。

新番号：050-1742-6188

旧番号：052-221-8318

[https://jsqc.org/51\\_annual\\_technical\\_conference\\_boshu/](https://jsqc.org/51_annual_technical_conference_boshu/)

### 事務局

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部：166-0003

杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟 東高円寺ビル内

TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

E-mail：jimukyoku@jsqc.org

中部支部：460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会 名古屋支部内

TEL：050-1742-6188

FAX：052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

新藤田ビル11階

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org